国立ハンセン病資料館
2015年度秋季企画展

私立ハンセン病療養所

待労院の歩み

たいろういん

—創立から閉院までの115年—

会　　期　2015年10月3日（土）
～12月26日（土）

会　　場　国立ハンセン病資料館
企画展示室

開館時間　9:30-16:30
（入館は16:00まで）

休 館 日　月曜日
（10月12日・11月23日を除く）
国民の祝日の翌日

入館無料

国立ハンセン病資料館
National Hansen's Disease Museum
〒189-0002　東京都東村山市青葉町4-1-13
TEL 042-396-2909　FAX 042-396-2981
URL http://www.hansen-dis.jp/

中尾丸施療所の内部（1899 年）

待労院病棟前の畑での農作業（1904 年）

クリスマス（1953 年）*

創立 100 周年のミサ（1998 年）

熊本市島崎の一角に、115年にわたり存続した、カトリック系の私立ハンセン病療養所がありました。2013年1月、入所者の減少により静かに幕を閉じた待労院です。

近代日本におけるハンセン病療養所は、宗教者による救療事業に端を発しています。1898年創立の待労院もその一つで、日本有数のハンセン病患者の集住地であった本妙寺周辺における、「パリ外国宣教会」の司祭J.M.コールと、「マリアの宣教者フランシスコ修道会」の5人の修道女による施療活動がその起こりです。

1901年、本妙寺にほど近い琵琶崎の丘に、ハンセン病患者の療養施設である待労院が建設されます。やがてこの地には親を失った子どもや路傍に棄てられた高齢者などの困窮する人びとも集まり、修道女たちとともに信仰に基づく共同生活を送る「聖母ヶ丘」が形成されました。待労院はその中で、名称や機能を変えながら、ハンセン病患者・回復者の生活の場であり続けました。

当館ではこれまで主として国公立のハンセン病療養所に焦点を当ててきましたが、この度の待労院の閉鎖を機に、その創立から閉院までの歩みを展示いたします。国公立療養所とは異なる形成過程とそこでの療養生活の一面をご覧いただき、ハンセン病療養所の歴史への理解をより深めていただければと考えています。また「聖母ヶ丘」の始まりとなった待労院という存在を通して、近代以降の日本における宗教と社会事業との関わりについてお考えいただくきっかけともなれば幸いです。

■付帯事業については追って当館ホームページ等でお知らせします

Access

・西武池袋線 清瀬駅南口より久米川駅行バスで約10分

・西武新宿線 久米川駅北口より
清瀬駅南口行バスで約20分
＊いずれもバス停留所
「ハンセン病資料館」で
下車すぐ

・JR武蔵野線新秋津駅、
西武池袋線秋津駅南口より
徒歩約20分

・関越自動車道所沢I.C.より
約30分（駐車場あり）

表面写真：上より　「マリアの宣教者フランシスコ修道会」から派遣された5人の修道女（1898年）・精米（1924年）・聖堂へ（1950年代）*

＊は「マリアの宣教者フランシスコ修道会」資料館所蔵